

「信州道の駅交流会」設立総会 議事録

日時：令和2年11月27日(金) 10:30～

場所：安曇野合同庁舎 講堂

発言者	発言内容
黒崎	<p>— 次第1、「信州道の駅交流会」設立総会、開会宣言(10:30) — 進行：上田道と川の駅、黒崎</p>
黒崎 阿部知事	<p>— 次第2、来賓紹介、あいさつ — 議会中、かつ新型コロナ対応でご多忙の中のご参加に御礼 長野県知事 阿部 守一様 ごあいさつ(別紙参照)</p>
黒崎 代表挨拶 永江所長	<p>— 来賓紹介 — 国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所 永江 浩一郎所長 中部地方整備局 飯田国道事務所 中村 誠副所長  長野国道事務所長 永江 浩一郎様 ごあいさつ(別紙参照)  (阿部知事、公務のためご退席)</p>
黒崎	<p>— 出席報告 — 会場参加19駅、WEB参加10駅、委任状16駅、合計45駅、 全52駅の過半数超を確認。</p>
石井	<p>— 次第3、経過・設立趣旨の説明 — 研究会、検討会、準備会と事務局を務めてきた、上田道と川の駅石井から説明。 経過説明 ・平成31年2月6日：第1回長野県道の駅 駅長会議において上田道と川の駅、花の里いいじまから交流会設立の提案 ・令和元年9月17日：第2回長野県道の駅 駅長会議において交流会設立について同意を得る ・令和2年2月：交流会研究会で交流会規約(素案)の作成 ・令和2年2月18日：参加応募のあった14駅で設立検討会議を開催し、交流会の方向性を確認するとともに検討会事務局を設置 ・令和2年3月～8月：交流会規約・計画等の作成し、検討会事務局がすべての道の駅を訪問(全駅が交流会参加の意向あり)</p>


	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年8月31日：設立準備会を開催し準備会地区事務局を設置。また発足時記念行事（ARスタンプラリー）の実施を確認</li> <li>・令和2年9月：地区準備会事務局により、スタンプラリー負担金等について各駅と調整</li> <li>・令和2年10月16日～：スタンプラリー（記念行事）（年内）</li> <li>・令和2年11月5日：設立準備会を開催し、設立総会について協議</li> <li>・令和2年11月27日（本日）：設立総会を開催</li> </ul> <p>設立趣旨説明</p> <p>これまで地区に分かれて活動していた長野県の道の駅がすべて集い、交流することにより、利用者の利便性と地域活力の向上等に寄与し、もって各道の駅の健全な運営と経営を図ることを目的に、「信州道の駅交流会」を設立する。</p>
黒崎	— 次第4、規約の確認 —
石井	事務局から説明（資料1） これまで研究会、検討会、準備会の中で皆様のご意見を踏まえつつもに作ってきた規約案となるため、全文の読み上げはしない。県下全道の駅運営者の皆様に訪問したり対話しながらご賛同いただいた会設立の目的に則り、規約各章の構成となっている。交流会の運営にあたり、行動や判断の拠り所となる基準として整理した。会の名称、目的を読み上げ、規約の確認とする。
黒崎	規約案について、採決 Web参加者も半数以上の賛成、異存がないものと認め、規約について確認された。
黒崎 石井	— 次第5、役員を選任 — 添付資料の通り案を事務局より説明。
黒崎	役員案について諮る
女神の里 たてしな 竹花駅長	賛成意見を述べる。長野大学環境ツーリズム学部と連携活動しているが、熊谷教授はじめ皆さん、初代会長候補高橋先生について、大変手腕があり、素晴らしい人物と推薦されている。皆様も、会長が手腕発揮できるように賛成されてはいかがか。 (他、発言なし)
黒崎	異存がないものと認め、原案通り、役員が選任された。

高橋会長	— 次第6、選任役員を代表して、高橋大輔会長挨拶 — 長野大学環境ツーリズム学部で教員を務めている。 会長選出にあたり、ご挨拶申し上げたい。 専門は川や里山など、自然環境系の研究者。上田道と川の駅を拠点に、子供たちに地域の自然環境の面白さに触れ、地域に愛着を持ってもらうような環境教育活動をし、上田道と川の駅の運営にも10年携わってきた。 道の駅の3つの役割、休憩、情報発信、地域連携機能がある。議案の中にも、「持続可能な地域」がでてきたが、その拠点として道の駅が役割を果たしていくためには、情報発信、地域連携機能を高めていく必要がある。 各52駅それぞれに設立事情、経緯が違い、それぞれ強み、特長もある。それら強みをうまく生かしていくのが、交流会の大事な役割。まず道の駅同士で情報を共有しあうことで、自他ともに発展していくような取り組みを進めていきたい。 こうした取り組みを拡大していくことで、信州全体の魅力が高まっていく。すると各駅が発展する礎となる。 これまで道の駅同士の交流が行えてこなかったところもあるが、交流会を通じて、道の駅同士様々な交流を行い、強い信州、お客様に喜ばれる信州、そして地域の顔、信州の顔となるような道の駅を目指したい。 こうした理念はぶらさずに、一駅ごとではなかなか進めるのも難しいので、みなさんの意見、知恵を結集しながら、信州の道の駅を盛り上げていく交流会にしたいので、ご協力をお願いしたい。
黒崎	— 次第7、議事 — 規約第11条の4により、高橋会長、議長就任。
高橋会長	円滑な議事の進行にご協力を願いたい。 事務局から議案の説明を。
石井事務局 局長	スタンプラリーの現況について、口頭説明、別紙参照 10/16～31 延3298人、11/1～23、延6303人とデータが採れる。 (添付議案1.事業計画、議案2.予算案について説明。)
高橋会長	令和2年度事業計画案及び予算案について諮る。承認は挙手にて。 (全員挙手) 賛成多数と認め、議案1、2は承認された。
	その他の議案について諮る


高橋会長	(発言なし) 以上で議事終了し、議長退任。
黒崎	— 次第8、「信州道の駅交流会」設立総会、閉会宣言(11:02) —

以上、「信州道の駅交流会設立総会」議事録について、相違ないものと認める。  
(署名)

道の駅 道の駅 いくさかの郷

駅長 松沢 幸重 

道の駅 道駅 女神の里 たてしな

駅長 竹花 啓明 

『信州道の駅交流会 設立総会』来賓あいさつ要旨

◇長野県 阿部知事

- ・「信州道の駅交流会」設立総会にあたり、長野県を代表してご挨拶申し上げます。
- ・道の駅関係の皆様には日頃から地域の活性化、観光の振興、物産の販売など多くの分野で長野県の発展に多大なご貢献をいただいていること、心よりありがとうございます。
- ・また、新型コロナウイルス対応では感染防止対策に様々なご協力をいただいていることに重ねて御礼を申し上げます。
- ・今、全国では感染者が多い状況にあります。長野県も11月に入って、これまでの第1波、第2波に比べて感染者が増えている状況です。引き続き道の駅の皆様のご協力も頂きながら、何とか感染者が増えないように取り組んでいきますので、ご協力とご支援をお願いしたいと思います。
- ・「道の駅」については、当初のいわゆる休憩施設としての位置付けから、皆様方の努力と創意工夫によって、地域や長野県にとってなくてはならない存在になったと思っています。今や「道の駅」を目的に長野県にお越しになられるといった方もいらっしゃる状況で、県としても皆様の取り組みと力を合わせて、更に道の駅がそれぞれの地域振興の核として発展していただけるように、更には長野県の観光、物産、交流の拠点となるように取り組んでいきたいと思っています。また、子育てや防災といったいろいろな機能を担っていただく中で、我々行政も皆様方とのパートナーとして、道路担当の建設部だけでなく、農政部、観光部、危機管理部など、いろいろな部局で連携を取らせていただきたいと思います。
- ・そのような中、今日このような形で県内の道の駅が一堂に会し、

一体となった取組をスタートされることは、大変意義深いことだと思っておりますし、私としても大歓迎でございます。

・この交流会の取組が、それぞれの道の駅の更なる発展に資する活動となりますこと、そして皆さんの活動のおかげで長野県の観光、物産、地域の振興がより一層図られていくことを心から期待しております。県としても全庁をあげて、皆さんと連携を取って取り組んでいきたいと思っておりますので、どうかよろしく願います。

・結びに今日ご参加の皆様方の益々のご活躍とご健勝、そしてそれぞれの道の駅の商売繁盛、そして多くの皆様方がお越しいただくことを心から願って、挨拶とさせていただきます。

・私も皆さんの道の駅を利用させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

◇関東地方整備局 長野国道事務所 永江所長

・長野県内では国道の管理をしておりますのが、関東地方整備局の長野国道事務所と中部地方整備局の飯田国道事務所の2つがあります。私から代表してあいさつさせていただきます。

・本日は、信州道の駅交流会設立総会の開催、心よりお祝い申し上げます。また、平素より国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

・道の駅は平成5年に制度を設立して以来27年が経過しております。今年の7月に新たに7つの駅が登録され、現在までに1,180駅が登録されています。

・設立当初の道の駅は休憩機能や情報発信機能、道の駅をきっかけとした地域の連携機能が主な役割でした。近年は特産品の販売拠点、観光拠点、防災機能などの役割を担い、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段だと期待されています。

・2020年からは道の駅「第3ステージ」として、2025年に目指すべき3つの姿として、道の駅を世界ブランドへ、更に防災道の駅などの姿が示されたところでございます。

・本日、全国で3番目に多い52の道の駅が一体となりまして、信州道の駅交流会の取り組みを始められることは、国として道の駅の施策を進めていくうえでも非常に有意義なことだと考えております。国としても長野県とともに皆様と連携をさせていただきまして、本取り組みを支援して参りたいと考えているところでございます。

・結びに、信州道の駅交流会、県内の道の駅各位の益々のご発展と、本日ご臨席の皆様の一層のご健勝を祈念しまして、あいさつさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。